

平成28年5月13日

第19回「信用金庫社会貢献賞」の受賞活動決まる！
「人と人をつないだ「産・学・官・金」連携」の
柏崎信用金庫（新潟県）が会長賞に

一般社団法人全国信用金庫協会

全国信用金庫協会（会長：大前 孝治）が実施している、信用金庫業界の顕彰制度
第19回「信用金庫社会貢献賞」の受賞信用金庫、個人受賞者がこのほど決定いたしましたので、お知らせします。

第19回「信用金庫社会貢献賞」受賞活動

賞の種類	信用金庫名（都道府県）	受賞活動名
会長賞	柏崎信用金庫（新潟県）	人と人をつないだ「産・学・官・金」連携
Face to Face 賞	帯広信用金庫（北海道）	十勝の未来づくり応援プロジェクト
	三島信用金庫（静岡県）	さんしんハートフルを通じた社会貢献活動
	宇和島信用金庫（愛媛県）	NEXT100プロジェクト絵本製作
個人賞	二本松信用金庫（福島県） まつざか ひろし 松坂 浩 氏	地域の子どもたちを守る交通安全活動25年
	福岡ひびき信用金庫（福岡県） ふくもと ひろあき 福本 弘明 氏	俳句を通して地域の文化活動に貢献
	鹿児島相互信用金庫（鹿児島県） ふすく たつじ 賦句 辰治 氏	地域と一体となった台湾留学生支援
地域活性化しんきん 運動・優秀賞	ひまわり信用金庫（福島県）	街なか工場「ひまわりふれあい農園」の活動
	尾西信用金庫（愛知県）	地域活性化へ～138ひつじプロジェクト～

本賞は、地域に生まれ、地域と共に歩む信用金庫が、様々な分野で地域貢献・社会貢献活動を実践している真摯な姿を多くの方々から知っていただくとともに、地域における存在価値を一層高めていくことを目的に、平成9年に創設いたしました。このような、地域に根ざした永年にわたる信用金庫の地道な活動に光を当て、これを顕彰することは大きな意義があると考えております。

今回は、昨年10月から12月までの募集期間に、164信用金庫・4関係団体から583件の応募がありました。その活動内容は多岐にわたっており、環境保全や社会福祉、金融教育支援、高齢化社会への対応のほか、東日本大震災からの復興支援、地域活性化への取組み、次世代経営者の育成、取引先の販路拡大策など、どれも地域に根ざした信用金庫の不断の努力と叡智を結集したものとなっています。選考委員会での厳正な審査の結果、会長賞をはじめとする受賞6信用金庫、個人賞受賞3名の活動が決定いたしました。なお、来る6月24日（金）開催の第138回全信協通常総会において表彰式を執り行う予定です。

 <参考> 第19回「信用金庫社会貢献賞」応募状況

地区別応募状況

地区名	金庫・団体数	応募件数
北海道	12	38
東北	16	47
関東	30	87
東京	15	53
北陸	7	15
東海	29	126
近畿	23	104
中国	11	49
四国	4	10
九州北部	5	15
南九州	12	34
団体	4	5
合計	168	583

活動分野別応募状況

活動分野	応募件数
地域社会活動	342
スポーツ	49
社会福祉	31
芸術・文化	23
教育	50
環境	56
健康・医学	6
国際交流	1
史跡・伝統文化保存	3
災害救援	22
学術	0
合計	583

本件についてのお問合せは、全国信用金庫協会 広報部 小西、斎藤、鈴木、坂本
 (TEL.03-3517-5722 FAX.03-3517-5792)までお願いいたします。

第19回「信用金庫社会貢献賞」の選考総評と受賞活動の概要

1. 選考総評 “社会貢献” は人のためならず

選考委員 松岡紀雄氏（神奈川大学名誉教授）

第19回を迎えた信用金庫社会貢献賞には、過去最多の583件もの応募が寄せられた。しかし、実際に応募した金庫・団体は168にとどまり、全金庫の約63%に過ぎない。今回の結果からも明らかのように、選考に当たっては活動の規模よりも、その社会的意義やユニークさ、地域社会に与えた影響などに目を向けている。未応募の金庫には、20回目を迎える次回こそ、ふるって応募してほしいと心から願っている。

今回の**会長賞**には、柏崎信用金庫の「人と人をつないだ『産・学・官・金』連携」が選ばれた。中学生や大学生と地元の老舗菓子店や日本酒メーカーとのコラボを図り、新商品開発や商品ラベルの制作などを通じて、商店やまちの活性化に取り組んでいる。中学校の総合学習40時間のカリキュラム作成や、職員による10時間の授業も含まれている。「信金の仕事と言えば窓口業務しか思い浮かばなかった」という大学生が、地元企業に深く入り込んで支援していることを知り、信金に対する信頼や親しみを増していく様子が伝わってくる。役職員数100名余の小規模金庫だが、まさに「社会貢献は人のためならず」である。

Face to Face賞には、3金庫の取組みが選ばれた。帯広信用金庫の「十勝の未来づくり応援プロジェクト」は、次代を担う人材育成を目的に創設されたものである。高校生の柔軟な発想や行動力を活かし、地元特産品を使った商品開発などに対する助成を行っている。

「さんしんハートフルを通じた社会貢献活動」で受賞する三島信用金庫は、金庫本体で法定雇用率（現在は2%）を達成した上で、創立100周年を機に特例子会社を設立した。障がい者に正社員として安心して働ける職場をつくり出すとともに、その様子を特別支援学校の生徒たちや、地域の中小企業等にも積極的に紹介し、地域全体の障がい者雇用の推進に努めている。障がい者を職場から疎外して施設に入れれば、支援に要する税金は生涯約2億円と言われる。職場に受け入れられることによって、障がい者が喜びや生きがいを持ち、立派な納税者になることができるのである。

宇和島信用金庫の「NEXT100プロジェクト絵本製作」では、「宇和島伊達400年祭」を機に、地域の歴史や文化をわかりやすく伝える絵本を製作・配布している。市民の間で子どもたちへの読み聞かせが広がり、目の不自由な方向けの点字本や、音声テープもボランティアの力で製作され、さらに第2弾の絵本も完成したとのこと。小規模な金庫が生み出した大きな波紋と言えよう。

個人賞には、松坂浩さん（二本松信用金庫）の「地域の子どもたちを守る交通安全活動25年」と、福本弘明さん（福岡ひびき信用金庫）の「俳句を通して地域の文化活動に貢献」、賦句辰治さん（鹿児島相互信用金庫）の「地域と一体となった台湾留学生支援」が選ばれた。四半世紀にも及ぶ地道な活動もあり、地域の人々と深く関わり、信金全体のイメージアップにもつながっている様子が目に浮かんでくる。

地域活性化しんきん運動・優秀賞には、2つの金庫が選ばれた。ひまわり信用金庫の「街なか野菜工場」は、同金庫出張所の1階に設けた、LED活用の無農薬、水耕栽培の野菜づくり工場である。福島原発事故被災地の苦難を乗り越えようとする、地元企業の復興支援を狙った提案型のモデル事業の実践と言える。

尾西信用金庫の「138ひつじプロジェクト」は、毛織物という伝統の地場産業の衰退を憂慮した同金庫が中心となった、地域活性化の協議会立上げから始まった。毛織物の元となる羊に着目し、「ひつじの街」というブランド化に取り組んでいる。専用のホームページやFacebookページを立ち上げ、各種団体や企業、一般市民も参加できるオープン型、協働型のプロジェクトにしようとしている点が評価される。

2. 受賞活動の概要

【会長賞】

柏崎信用金庫（新潟県）／人と人をつないだ「産・学・官・金」連携

柏崎信用金庫では、地域活性化のために、産・学・官・金を結びつけた多彩な活動を行っている。

その一つ、地元中学生と老舗和菓子店のコラボレーションは、和菓子店の経営改善と、新商品開発による売上拡大を目的としたものである。具体的には、中学校の数クラスを擬似会社とみなし、クラスごとにアイデアを募集。さらに市民参加のコンペによって最優秀作品に選ばれたアイデアは、実際に商品化もされている。

経営多角化を模索していた印刷会社とのコラボレーションでは、エコトイレットペーパーの製造・販売を実施した。長岡市小国町の限界集落・16戸の人々と地元中学生がケナフを栽培。それを原料として印刷会社がトイレットペーパーを製造し、販売までを行った。

地元大学生と地元酒造メーカーを結びつけた活動にも、特筆すべきものがある。

柏崎市にある酒造メーカーが、同金庫を通じ「若い人が飲みたくなる日本酒」のラベルデザインを地元大学に依頼。集まったデザインは、学内コンペや第1回高柳町デザイン大賞となる町民コンペを経て決定後、高柳町商工会の協力も得て新商品に採用された。結果は、約1か月で4合瓶900本の出荷という、同社として過去に例を見ないヒットとなった。

高柳町デザイン大賞はその後も継続実施され、優秀作品は町内の企業を対象としたデザインマッチングに提案される。同金庫では、このように人と人をつなぎ、アイデアの商品化による地域おこしを担っている。

【Face to Face 賞】

帯広信用金庫（北海道）／十勝の未来づくり応援プロジェクト

次代を担う有為な人材の育成は、地域の産業・経済振興の重要課題と言える。

そこで、帯広信用金庫では、平成23年度におびしん金融経済教育プログラム・地元高校生による「十勝の未来づくり応援プロジェクト」を創設し、経済的自立や社会人への巣立ちを控えた高校生の取組みを対象とした、より実践的な支援を実施している。

同プロジェクトでは、地元の大学や企業、専門家への橋渡し、展示商談会展出への支援、さらに活動資金（上限20万円）の助成等の支援を実施。これまでの例として、地元特産のスモモを使った調理パン等の商品開発に取り組んだ農業高校、圧縮空気を動力とするエアエンジンの開発に取り組んだ工業高校など、高校生ならではの柔軟な発想を活かした様々な取組みを支援してきた。その成果は、地域資源の再認識、地元事業者による新商品開発、観光イベントの誕生などにつながり、十勝の産業・経済の活性化に大きく寄与している。

本プロジェクトには平成27年度までに延べ174名の学生が参加。毎年開催している地域の関係者・住民・マスコミ等を対象とした成果発表会を見聞したのがきっかけとなり、次年度のプロジェクト参加を希望する学校が名乗りを上げるなど、本取組みの評価と実績は、地域において着実な高まりを見せている。

【Face to Face 賞】

三島信用金庫（静岡県）／さんしんハートフルを通じた社会貢献活動

三島信用金庫では、昭和37年の創立50周年時に社会福祉法人三信福祉協会を設立し、これまで地域の障がい者団体・NPO法人などの活動支援のために補助金を支給してきた。

同金庫では、地域の障がい者支援の活動をさらに広範化するため、創立100周年の平成23年度に特例子会社さんしんハートフル株式会社を設立。優良な雇用の場となって、地域の障がい者支援をしている。同社には現在、17名の障がい者が正社員として働いている。

同社の主な業務は、環境美化・販促品調製・データ処理・印刷製本などであり、同金庫では、

より高品質な顧客サービスを実現するための業務を同社に委託している。

さらに、同社社員の働きがい・生きがい向上とキャリアアップのために、アビリンピック静岡大会への出場支援や、清掃業務の技能およびコミュニケーションスキルの向上訓練なども行っている。

また、障がいのある社員が、市街地や特別支援学校の校舎・校庭などの清掃をしたり、特別支援学校の生徒たちと意見交換などを行う機会を通して、働くことの楽しさを生徒たちに伝えている。

【Face to Face 賞】

宇和島信用金庫（愛媛県）／NEXT100プロジェクト絵本製作

平成 27 年、伊達政宗の長子である宇和島藩初代藩主・伊達秀宗の宇和島入部 400 年を記念し、「宇和島伊達 400 年祭」が行われた。

これを機に、宇和島信用金庫では、地元によく継がれるものを残したいとの思いから、「うわしん伊達文化NEXT100プロジェクト」を発足。その一環として、未来を担う子どもたちに地域のすばらしい歴史や文化をわかりやすく伝えていこうと、絵本製作を企画した。

『伊達秀宗公物語～政宗との親子の絆』と題された絵本には、古今変わらない親子の深い愛情を軸に、立派な武将としての教えなど、道徳や教育的視点も盛り込まれている。また、絵本に登場する甲冑や婚礼衣装などは、秀宗公が実際に身につけたものを参考に描かれ、物語にまつわる資料集を加えるなど、史実に沿った内容となっている。

同絵本は、地域の有識者や教育関係者、絵本作家とのチームで製作。初版 1 万冊が刊行され、市民や市の教育委員会を通じて小・中学校に無料配布された。さらに、幼稚園、保育園、老人ホーム、公民館、図書館など広範に配布され、地域の PR イベントにも大いに寄与している。

その反響は地元のみならず全国に広がり、各地から問合せや感想の手紙が届いた。市民の間では読み聞かせの動きも広がり、目の不自由な人向けの点字本や、音声テープもボランティアにより製作された。

絵本の刊行がきっかけとなり、地元では、地域への誇り、歴史・文化への理解も高まっている。当金庫では熱心な要望に応じて、すでに第 2 弾の絵本製作も進み、平成 28 年 4 月に発刊した。

【地域活性化しんきん運動・優秀賞】

ひまわり信用金庫（福島県）／街なか工場「ひまわりふれあい農園」の活動

ひまわり信用金庫の地元では、事業者の漸減による空き工場・空き店舗の増加、さらに福島第一原子力発電所事故に伴う風評による観光業や農林漁業への影響という深刻な問題を抱えていた。

そこで、ひまわり信用金庫では、地域の活性化・復興のための新たな支援策として、平成 26 年、街なか野菜工場「ひまわり ふれあい農園」を開園した。同金庫の空き店舗を活用した同農園では水耕栽培が行われているが、モデルハウスとして見学者を受け入れ、空き工場や店舗の活用例を積極的に提案している。

また、成長分野でもある水耕栽培の特長をアピールすることで、中小企業の経営多角化や起業の後押しにつなげることも狙いとしている。

収穫した野菜は同金庫各店の顧客などへ配布され、水耕作物の安全性 PR にも寄与している。

28 年 3 月末現在、127 先・595 名の来園があり、来園者には卸価格などを参考に仮想の売上や運営コストなども含めた収益性を試算して示すなど、水耕栽培導入の検討材料を提供している。

同農園では、地元の県立磐城農業高校や国立福島工業高等専門学校とのコラボレーションも積極的に行い、水耕栽培の品質向上と品種拡大、高品質野菜の栽培技術開発・栽培コスト削減などを目的とした共同研究に取り組んでいる。

【地域活性化しんきん運動・優秀賞】

尾西信用金庫（愛知県）／地域活性化へ～138ひつじプロジェクト～

「138（＝一宮：イチノミヤ）ひつじプロジェクト」は、平成23年に発足した「一宮活性化プラン協議会」のプロジェクト第1弾である。同協議会は、一宮市の社会的・経済的活性化に向けた協議・検討を行う機関として、尾西信用金庫が地域の団体・学校・企業等に呼びかけて発足させたものである。

毛織物産業で発展してきた一宮市は昔から羊との馴染みが深く、同プロジェクトは、羊を地域資源として活用したイベントや羊に関わる店舗の発掘などを通じて、「一宮市＝ひつじの街」というブランド化を推進しようとしている。

人間生活の基礎である「衣・食・住」への総合的なアプローチを将来的な視野に入れ、まずは「食」という視点から、「ラムしゃぶ食べて街づくり」をはじめ、豪州農業者団体との国際交流会など、羊をコアに多彩な活動を行っている。

また、同プロジェクトは、地域で活動する市民団体の代表をイベントプランナーに迎えてスタートしたことから明らかなように、当初から積極的な市民参加を実践している。

サポーターとして一般市民も参加できるオープン型にしていることもその一環で、さらなるプロジェクトの認知度向上、参加者の拡大や交流の活発化などを目的として、専用ホームページやFacebookページも開設、運営している。

【個人賞】

二本松信用金庫（福島県） 松坂 浩氏 ／地域の子どもたちを守る交通安全活動25年

地元の伝統例大祭の幹部として活躍するなど、地元に着目した活動を積極的に続けてきた松坂氏は、ボランティアとして25年間、二本松交通安全協会郭内分会で活動。通学時の子どもたちや地域の高齢者などの交通事故防止に努めてきた。

活動は、新入学児童や自転車利用者に向けた交通安全教室の実施から、市内行事での交通整理、カーブミラーの清掃まで広範囲に及び、二本松交通安全協会分会功労者や福島県交通功労者として表彰されるなど、その功績は高く評価されている。

【個人賞】

福岡ひびき信用金庫（福岡県） 福本 弘明氏 ／俳句を通して地域の文化活動に貢献

福本氏は、顧客から勧められた俳句会への参加と、そこでの九州俳壇の重鎮、故・穴井太氏との出会いをきっかけに、俳句に目覚めたという。

現在は、穴井氏が創刊した俳句同人誌『天籟通信』の代表として、主に北九州市内で俳句会を開催し指導に当たるほか、地域のみならず、現代俳句全国大会の審査員（選者）も務めている。また、福岡ひびき信用金庫主催の「ひびしん俳句大賞」の創設にも関わるなど、長年、俳句の普及に尽力してきた。

また、第15回天籟通信俳句賞や北九州芸術祭銅賞など、受賞歴も多い。

【個人賞】

鹿児島相互信用金庫（鹿児島県） 賦句 辰治氏 ／地域と一体となった台湾留学生支援

薩摩川内市の鹿児島純心女子大学では、平成19年から毎年台湾からの女子留学生を十数名受け入れているが、慣れない異国でホームシックになる学生もいるという。それを伝え聞いた賦句氏は、10年前に自らリーダーとなって、留学生と地元住民との「台湾留学生の支援活動」をボランティアで始めた。

住民手づくりの郷土料理での歓迎会、バーベキューやソーメン流し会、夏祭りへの招待などを行っているが、大学や留学生はもちろん、台湾の家族にも喜ばれ、感謝されているという。地域と一体となった活動は、鹿児島－台湾友好の確かな礎になっている。

以上

＜参 考＞ **第19回「信用金庫社会貢献賞」について**

【創設目的】 地域に生まれ、地域と共に歩む信用金庫の原点を踏まえ、地域の発展に貢献する信用金庫の真摯な姿を広くアピールし、お客様や地域の信頼を揺るぎないものとするとともに、地域での存在感を一段と高めていく。

【対象活動】 信用金庫にふさわしい地域に根ざした活動で、地域振興、社会福祉、芸術・文化支援、史跡・伝統文化保存、交通安全、教育支援、留学生・在日外国人支援、環境保全、各種ボランティア等の地域社会活動および災害救援活動等の分野とする。

【表彰対象】 ・信用金庫および信用金庫役職員（個人・グループ）
・地区・府県信用金庫協会、中央団体

【選考基準】 活動の継続性（3年以上継続された活動であること。ただし、Face to Face賞の応募活動のうち、その特性から活動期間が必ずしも長期に亘らないもの、地域活性化しんきん運動・優秀賞は除く）、活動目的の社会的意義、地域との一体性（地域に溶け込んだ地域の方々と一体となった取組み）、活動の困難度、援助を受ける側の評価・感謝の度合い、関係者または地域社会に与えた影響、活動内容・方法のユニークさ、などを総合的に判断する。

【応募期間】 平成27年10月1日から12月30日まで

【選考委員】 ※所属等は平成28年3月現在、敬称略

石田 徹	日本商工会議所 専務理事
島田 京子	公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団 専務理事
高橋 陽子	公益社団法人 日本フィランソロピー協会 理事長
野坂 雅一	読売新聞東京本社 調査研究本部総務
堀田 力	公益財団法人 さわやか福祉財団 会長
松岡 紀雄	神奈川大学 名誉教授
大前 孝治	一般社団法人全国信用金庫協会 会長
秋山 勝男	信金中央金庫 副理事長
澁谷 哲一	一般社団法人全国信用金庫協会 広報委員会 委員長

【各賞の内容】

会 長 賞・・・活動の社会的意義、地域との一体感、地域社会に与えた影響等を総合的に判断し、Face to Face賞、地域活性化しんきん運動・優秀賞の受賞候補活動の中から最も優れた活動に対し与えるものとする。

Face to Face賞・・・地域金融機関にふさわしい、地域社会に溶け込んだ、地域の方々と一体感を深めることに寄与した活動および地域金融機関の社会貢献活動として今後の取組みが期待され、奨励される活動、ならびにその特性から活動期間が必ずしも長期に亘らないものであっても、環境・社会問題への取組み、災害復旧支援など関係者や地域社会に大きく貢献した活動等に対して与えるものとする。

地域活性化しんきん運動・優秀賞・・・中小企業の起業・成長・改善支援等をはじめとする地域の活性化をめざす活動のうち、各々の地域社会の実情と信用金庫の特性に合わせたユニークで、他の範となる活動に対して与えるものとする。

個 人 賞・・・個人あるいはグループの取組みで、信用金庫職員として他の範となる活動に対して与えるものとする。